

小麦鳥害から守れ

三重・JA伊勢
県機関と連携

【三重・伊勢】JA伊勢は、県農業研究所や伊勢志摩地域農業改良普及センターと連携し、小麦を食害するヒドリガモの対策に取り

組んでいる。伊勢市の農場で被害の実態を調査したり、対策に使う吹き流しの効果を確認したりしている。

ヒドリガモ対策改良

ヒドリガモは、淡水ガモの一種で、冬季に日本へ渡来する。麦の若葉を食害するため、麦の生育に遅れが出たり、収量に影響が出たりする。

市内では2年ほど前から、群れが農場にとどまり被害が顕著になってきた。生産者個別・独自の対策では立ち行かなくなったため、JAが同センターと連携して対策を講じる。

2023年12月に、同市村松町の農場中央部にトレイルカメラを設置。種別特定や被害を受ける時間帯を調べた。ヒドリガモが麦の若葉を食べる様子も確認した。対策として吹き流しを農場に設置し効果を検証した。

2024年度には、県農業研究所も加わり、吹き流しの改良や増設などに取り組んでいる。

JA担当者は「鳥害は防ぎにくく、対策も難しい。生産現場の助けになるため、効果的な手法を研究していく」と話す。



古い吹き流しを取り換えるJA職員